

	各社の考え方
□ 算定を行う背景・目的	<ul style="list-style-type: none"><li>● グループの事業活動全体のスコープ3の排出量を算定することで、グループ各社の各カテゴリの内容を把握し、今後の取組みを検討。</li><li>● 販売している製品の製造から、お客さまの使用、製品の廃棄およびお客さまの移動交通まで含めた範囲で算定を行い、小売業として効率的な温室効果ガスの削減に向けた取組みを検討。</li><li>● そのため、15カテゴリのうち、当社活動が該当しない2カテゴリを除き、任意の算定範囲も含めて13カテゴリを算定。</li></ul>
□ 算定結果の活用方法	<ul style="list-style-type: none"><li>● カテゴリごとの算定の軽重を考慮しつつ、継続的に排出量の推移を確認。</li><li>● CSRレポート等で、上記の算定結果と継続的な推移を記載し、対外的に報告。</li><li>● 各種アンケートへの回答及び展示会での活動紹介。</li></ul>
□ 算定のメリット	<ul style="list-style-type: none"><li>● カテゴリごとの温室効果ガス排出量を定量化することで、排出量が多いプロセスなど削減ポイントの抽出に役立てることが可能。</li><li>● 温室効果ガス排出量を定量的に見える化したことで、グループ社員全員のCSRへの取組みの士気向上促進に役立てることが可能。</li></ul>
□ 社内の算定体制	<ul style="list-style-type: none"><li>● (株)丸井グループのCSR推進部が中心となり、グループ各社の関連部署より数値やデータベース等の情報を収集、一部にシナリオを想定するなどして算定。</li></ul>

	各社の考え方
<p>□ サプライチェーン 排出量の削減に 向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● これまで当社では、お客さまと一緒に取組む環境活動を実施。</li> <li>● 今後も『マルイミライ～みんなつながる、まあるい未来』として取組みを進化・深化。</li> <li>● サプライチェーンの温室効果ガス排出量では、カテゴリ1の排出量が多い。</li> <li>● これまでの取組みに加え、重要なカテゴリであるカテゴリ1について、サプライヤーと協力した取組みも検討。</li> <li>● 今後、サプライチェーンの温室効果ガス排出量について継続的に推移を確認することで排出量の削減ポイントを把握し、取組みを検討。</li> </ul>
<p>□ サプライチェーン 排出量算定の 課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 任意の算定範囲も含め、ほぼ全てのカテゴリを網羅して算定。</li> <li>● 算定範囲が広範囲であることから、算定にかかる負荷が多いという課題もある。</li> <li>● 今後は算定の目的・算定結果の活用先を考慮し、排出量の少ないカテゴリ、経年変化の少ないカテゴリなどを見極め算定方法の簡易化を考慮できると考える。</li> <li>● また削減の取組みにより経年での削減を検討していくカテゴリについては、その効果が反映できるような精緻なデータ収集・算定が必要。</li> <li>● その他、算定範囲の一部については、データ収集が難しいなどの理由で算定対象から除外している箇所もあり、全体把握の観点から継続的なデータ収集を検討。</li> </ul>
<p>□ その他(任意)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 当社では、自社活動が関わるサプライチェーン全体の排出量を把握し、今後の削減ポイントを検討していくことを目的としたため、15カテゴリのうち、任意算定範囲も含めた13カテゴリを算定(残りの2カテゴリは、該当する事業なし)。</li> <li>● 任意算定範囲としては、顧客の移動(カテゴリ9)、アパレル製品の洗濯(カテゴリ11)などが対象。</li> </ul>

カテゴリ	算定方法	
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 商品原価、外部委託料	● 金額当たり原単位※1
カテゴリ2「資本財」	● 設備投資金額	● 金額当たり原単位※1
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	● エネルギー使用量	● エネルギー別原単位※1,2
カテゴリ4「輸送、配送(上流)」	● 外注輸送金額	● 輸送金額当たり原単位※1
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 廃棄物重量	● 重量あたり原単位(リサイクル)※1
カテゴリ6「出張」	● 交通費支給額	● 交通費支給額当たり原単位※1
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 通勤交通費支給額	● 交通費支給額当たり原単位※1
カテゴリ8「リース資産(上流)」	● リース物件の床面積	● 床面積当たり原単位※1
カテゴリ9「輸送、配送(下流)」	● 入店客数 ● 顧客移動距離(商圈)	● 交通手段別人キロ当たり原単位※1
カテゴリ10「販売した製品の加工」	● 該当なし	● 該当なし
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 販売したアパレル商品の種類別重量 ● 年間洗濯回数(オリジナルのシナリオ)	● アパレル商品の洗濯・クリーニングに伴う重量当たり排出量※3
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● 丸井商品、廃棄カード、包装材の重量	● 素材別重量当たり廃棄物原単位※1
カテゴリ13「リース資産(下流)」	● リース物件の床面積	● 床面積当たり原単位※1
カテゴリ14「フランチャイズ」	● 該当なし	● 該当なし
カテゴリ15「投資」	● 株式保有率	● 投資先の公表CO2量
「その他」	● オプションカテゴリのため除外	

※1 サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース(ver.2.1)

※2 カーボンフットプリントコミュニケーションプログラム基本データベースVer.1.01

※3 カーボンフットプリント製品種別基準(CFP-PCR) 対象製品:ユニフォーム

## 算定結果

